

親子で読書に親しもう ～ 親子読書の取組 ～

印南町立 稲原中学校 全学年

1 指導計画

本校では、全校で「親子読書」に取り組んでいます。親子で同じ本を読み、その本について親子で話し合ってもらおうという取組です。

・親子読書の目的

- ①本好きな子供を育てる
- ②他の人の感想を知り、自分の考えを深める
- ③親と子のコミュニケーションを図る

・実施時間

朝学活前の朝読書の時間（10分間）

・実施時期と今年度の課題図書

- | | | | |
|-----|-----|-----------|------|
| 6月 | 3年生 | 「オモニの歌」 | 岩井好子 |
| 9月 | 2年生 | 「もう一人の私に」 | 詩集 |
| 11月 | 1年生 | 「一房の葡萄」 | 有島武郎 |

・実施方法

- ①先に学校で生徒が読み、感想を書く。
読み終わったら、アンケートといっしょに本を保護者に渡す。
- ②次に、保護者に読んでもらう。
読んだ後、アンケートに答えて、本といっしょに学校に返してもらう。
- ③生徒・保護者の感想を新聞にまとめて発行する。



2 活用した本のリスト（全国 SLA 集団読書テキストより）

3年生「オモニの歌」 2年生 詩集「もう一人の私に」 1年生「一房の葡萄」

3 生徒の様子

本校の生徒は、どの学年も朝の読書に真剣に取り組んでいる。しかし、教室が1階、図書室が2階ということもあり、図書室を訪れる生徒の数は少ない。そこで、集団読書用のテキストを使って生徒が同じ本を読み、なお且つ、保護者も同じ本を読むという取り組みをすることによって、「家の人がこんなことを言っていたよ。」というような声も聞かれ、家庭での会話も生まれているようである。

4 生徒・保護者の感想

①3年生 「オモニの歌」

【生徒の感想】

・最初オモニって、どういう意味なんだろうと思っていましたが、読んでいるうちに「お母さん」という意味なんだと理解しました。お母さんと離れて、言葉もわからない日本に来るのは、ものすごい勇気がいることだと思い、この人たちはすごいなと思いました。夜間学校で勉強を習っているところを読んで、自分は朝から学校に行けていることが普通だけれど、この時代だったら

学校へ行くことも難しく大変だったんだなと思いました。

【保護者の感想】

・48歳で初めて夜間学校で読み書き計算などを習うことの大変さ、わかってきた時の喜びがとてもよく伝わってきました。私たちは当たり前前に小学校からの義務教育で読み書きなどを習っているけれど、国が違ったりすると、それが当たり前ではなく、日本人ではないのに日本で暮らしていかなければならない、そうした環境でも前向きに明るく生活をしていくことを目指されている方々に頭が下がります。

②2年生 詩集「もうひとりの私に」

【生徒の感想】

・「君死にたもうなけれ — 与謝野晶子」を読んだ感想は、昔の戦争はこんなにして多くの人が亡くなって行って、とてもかわいそうで本当にひどかったと思いました。一番心に残ったのは、最後の場面の「この世ひとりの君ならで ああ 誰を頼むべき。君死にたもうことなけれ。」でした。「この世でたったひとりのあなた以外に頼れる人はいないのでよ。」という意味です。最後に思ったのは、自分はこの世でたった一人しかいない命なので、最後まであきらめずに生きていこうと思いました。

【保護者の感想】

・「便所掃除 — 濱口國雄」を読んで。ボランティアで年に何回かですが、トイレの掃除をさせてもらうことがあります。詩集ほどではないですが、近い状況に遭遇することがあります。公共のトイレを後に使う人のことを考えず、キレイにできないのかと同じような気持ちで掃除することがあります。

しかし、この詩に書いていることを参考にして、「息子が美しい嫁に会えるかもしれない。」と思いながら、今後は掃除をさせてもらおうと思いました。

5 成果と課題（今後の方向性等）

- ・保護者の読後アンケートをみると、親子でその本について話したという回答が多く、親子でのコミュニケーションを図り、読書への関心をもってもらうことができたと思われる。
- ・3年生の「オモコの歌」は、生徒にとって内容や時代背景が難しかったが、多くの生徒が、「学ぶこと」の大切さや「学べること」の幸せを感じとっていたようだ。
- ・今回の2年生の本は詩集だったが、「好きな詩」や「内容」について親子で話したという家庭が多く、一冊の本から親子の会話が生まれたようだ。また、保護者アンケートの中に、詩の中に登場する「父」の姿に自分の父を重ね合わせ、幼い頃の事を思い出したというような、胸をうたれるような感想も見られた。保護者の方々の感想は、人生を積み重ねてきた経験からの重みを感じられ、生徒にとっても大変意味のあるものだと感じた。
- ・親子で会話がはずむような本を選ぶように努めているが、本の選定が難しい。
- ・親子読書用の本を家庭から回収するのに、少し時間がかかる。



(親子読書だより)



(図書館司書によるオリエンテーション)